

夏秋イチゴのクラウン冷却技術

夏秋イチゴ増収のファイナルアンサー？

園芸栽培部野菜チーム TEL:022-383-8132

研究の目的

夏秋期のイチゴ栽培では四季成り性品種や「雷峰」が主として栽培されていますが、夏季の高温による果実の小玉化や不安定な花成等が問題になっています。これらの対策として、四季成り性品種や「雷峰」におけるクラウン温度制御について検討しました。

研究成果

高温時に18～20℃の水をチューブに流して、クラウン部(株元)を冷却すると「サマードロップ」、「デコルージュ」(四季成り性品種)や「雷峰」(一季成り性品種)などの品種では収量が増加します。

処理を開始する時期は、5月中下旬頃で、終了する時期は9月中下旬頃です。(宮城県名取市基準)クラウン部の温度が15℃以下では展葉速度の低下、出蕾の遅延、草勢の低下になり、23℃以上では、品種によって花芽分化が遅れることがあります。

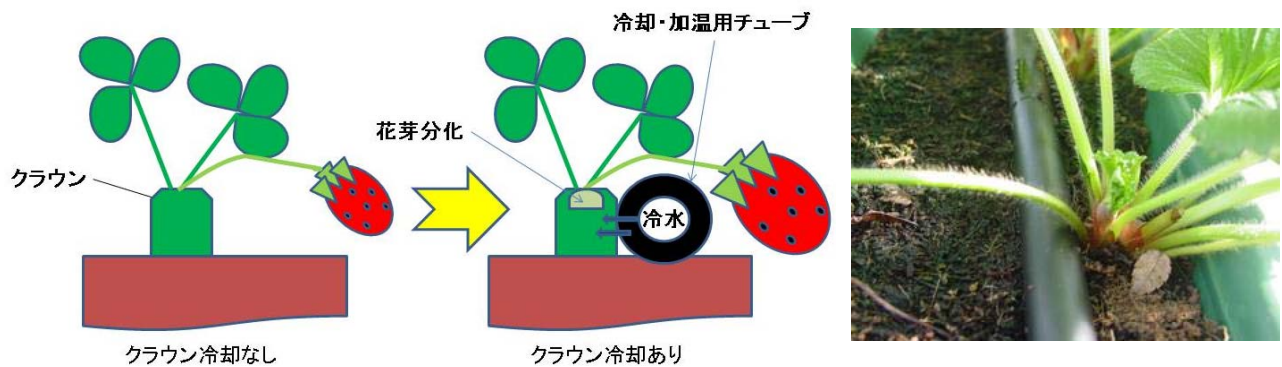


図1 クラウン冷却効果のイメージ

写真 使用したチューブ

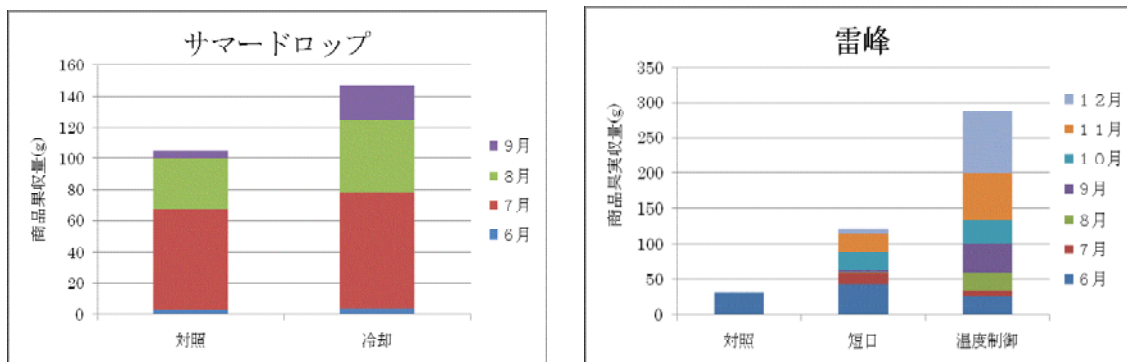


図2, 3 処理区別商品果収量

普及等の見込

「雷峰」栽培農家を中心に県内でも普及し始めています。

宮城県
農業・園芸総合研究所

宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地
TEL: 022-383-8111(代表) FAX: 022-383-9907(代表)
ホームページ: http://www.pref.miyagi.jp/res_center/
E-mail: marc-fk@pref.miyagi.jp(代表)